

(株)上八田ファミリー農場 代表取締役

塩尻泰一さん

明日へ向かって駆ける

農業法人の経営者は語る

「法人化で信頼が高まり、地元の多くの農家から農地を預かっている。さらに新規就農希望者の研修受け入れで、移住家族や若者が増えるなど地域活性化につながっている」と語るのは、綾部市上八田の「株)上八田ファミリー農場」代表取締役、塩尻泰一さん(73)だ。

上八田地区は、市中心部から約4キロ北の中山間地域。約38軒の田畑が広がる。農家68戸があるが、高齢化が進む中で農作業受託組織「上八田ファミリー農場」を17人で設立した。さらに2014年2月にJ A京都にのくごなどの指導で、荒廃地防止

と農地集積の拡大、農業経営の効率化を目的に、全農家賛同の下、発起人農家11人の出資で法人を設立した。

「受託組織では農地を預けてくれなかった人も、法人化したら預けてくれるようになった」と塩尻さん。当初3・5畝の受託農地だったのが、今では17畝に増加。その農地で特別栽培米「コシヒカリ」3・1畝、酒造

好適米「五百萬石」3畝、酒造用掛け米「京の輝き」2・3畝、特産「万願寺甘とう」5・6畝、小豆「京都大納言」1・6畝、直播(ちよくは)水稻2畝など、複合経営に取り組む。「全てJ A出荷。地域の荒廃農地はなくなった」と喜ぶ。

地域農業の担い手確保に向け、同社が地区外の人に空き家を貸す仲介役もしている。その

結果、3家族で小学生を含む11人を受け入れることができた。新規就農希望者の研修受け入れにも取り組む。3月には、府立農業大学校を卒業して府の「担い手養成実践農場」研修を受ける若手を対象に、塩尻さんが「万願寺甘とう」を中心に栽培技術を指導する。

こうした積極的な姿勢に、市観光協会も注目。地元や他府県の子どもたちの農業体験を同社に呼び掛けて行っている。

塩尻さんは「課題となっている獣害対策は、専任者を雇用する予定だ。J Aの直売所に出荷して収益確保を図る他、地元の文化祭などに協力して地域活性化に努めたい」と話す。

▲地域の農地保全や担い手確保に努める塩尻さん



法人化で信頼高まる

■法人概要 2014年2月設立。役員5人。監査役2人。農繁期に臨時雇用者6人。農機はトラクター2台の他、コンバイン、小豆刈り機、田植え機、農業散布機各1台。

■法人所在地 綾部市上八田町地生12。(電)0773(44)1176(塩尻さん宅)。